

# 経営比較分析表（平成28年度決算）

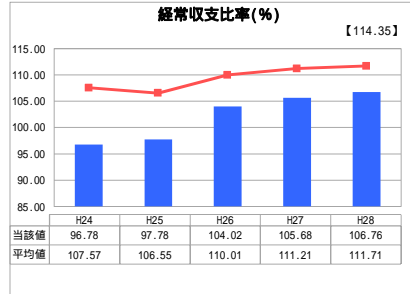
佐賀県 嬉野市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金 (円)	
-	81.75	93.88	3,740	

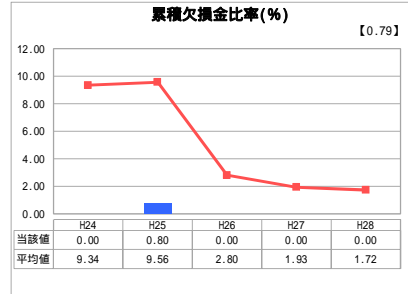
人口 (人)	面積 (km <sup>2</sup> )	人口密度 (人/km <sup>2</sup> )
27,020	126.41	213.75
現在給水人口 (人)	給水区域面積 (km <sup>2</sup> )	給水人口密度 (人/km <sup>2</sup> )
25,156	83.40	301.63

グラフ凡例
■ 当該団体値 (当該値)
- 類似団体平均値 (平均値)
【】 平成28年度全国平均

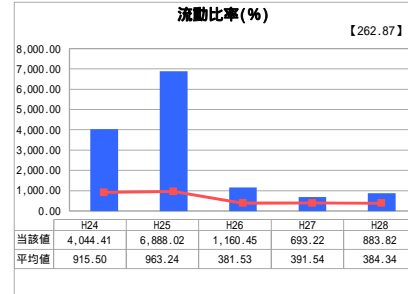
## 1. 経営の健全性・効率性



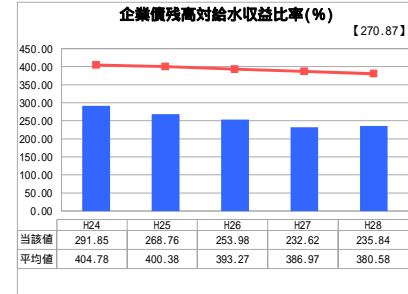
「経常損益」



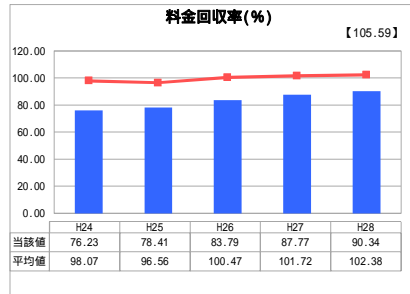
「累積欠損」



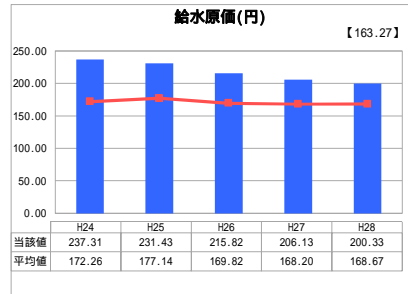
「支払能力」



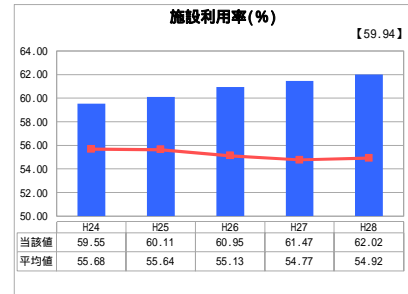
「債務残高」



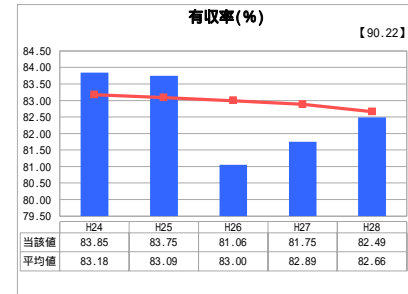
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

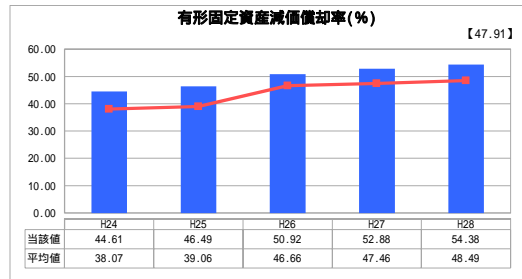


「施設の効率性」

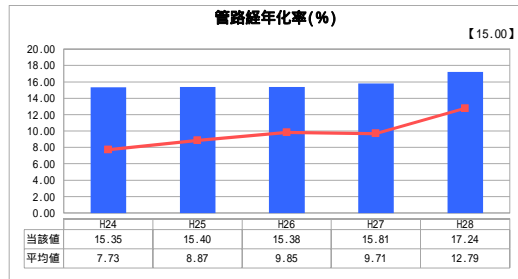


「供給した配水量の効率性」

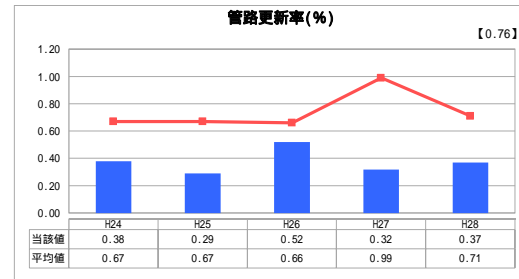
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率は、100%を超えているものの、経常収益に占める給水収益の割合は78%と低く、一般会計からの繰入金に占める割合が大きい。今後も経費削減に取組み健全経営に努める。

流動比率は、平成25年度までは類似団体平均を大きく上回っていたが、平成26年度以降は公営企業会計基準の見直しにより大きく減少した。

企業債残高対給水収益比率は、類似団体平均と比べ低い数値で推移してきたが、現在簡易水道統合事業や未普及地域解消事業を実施しており、平成29年度から浄水場の耐震化に取組むため、今後は増加が見込まれる。

料金回収率を見ても、100%を下回っており給水収益では費用を賄えていない。経営収支比率は、厳しい状況であり、適切な料金改定を検討し健全性の維持を図るよう努めなければいけないが、広域統合のため他水道事業者と協議している。

給水原価は、維持管理費の削減をできる限り行っているため昨年度より減少した。

有収率は、老朽管の更新が追いついていないため漏水が発生しており、低い値となっている。効率性に問題があるため計画的に老朽管の更新を行うよう努める。

### 2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率は、類似団体と比較すると高く、将来の施設の更新等に備え、財源の確保に努める。

管路経年化率は、類似団体と比較すると高く、将来の施設更新に備え、財源の確保に努める。

管路更新率は、類似団体と比較すると著しく低く、配水管等の更新が進んでいない。法定耐用年数を経過した配水管等については、漏水の頻発している箇所から優先的に更新している状況である。今後も、更新の必要性を考慮しながら計画的に更新していく。

## 全体総括

給水収益の減少が続く中で、計画的な施設の整備・更新を進めていく必要があることから、今後も厳しい経営状況が続くものと見込まれる。経費削減に努めるほか、企業債残高の削減を図るなど財務体質の強化を図りつつ、限られた財源を効果的に配分して事業を推進していく。また、今後は平成32年度に広域水道統合を目指し水道事業の安定供給に努める。